

1. 評価報告概要表

作成日平成 22年1月22日

【評価実施概要】

事業所番号	1090500149
法人名	特定非営利活動法人コスモス
事業所名	グループホームコスモスガーデン
所在地	太田市西野谷町95-1 (電話) 0276-32-7591

評価機関名	特定非営利活動法人 群馬社会福祉評価機構
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12
訪問調査日	平成22年1月19日

【情報提供票より】(平成21年12月25日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 21年 4月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤	4人 非常勤 5人 常勤換算 3.2人

(2)建物概要

建物構造	木造造り		
	2階建ての	1階 ~	1階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	400 円	昼食 400 円
	夕食	400 円	おやつ 0 円

(4)利用者の概要(12月25日現在)

利用者人数	9名	男性	1名	女性	8名
要介護1	0名	要介護2		5名	
要介護3	3名	要介護4		1名	
要介護5	0名	要支援2		0名	
年齢	平均 88.1歳	最低	78歳	最高	99歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	山岸内科 ・ 長谷川歯科
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは街道沿いにあり、小規模多機能型居宅介護事業所と併設された洋風の建物である。運営に当たっては、自らも加齢に伴わない入居し、また、友人に勧められるような運営を心がけ、職員にも指導し、同じ気持ちを持ちきめ細かな支援に当たっている。日当りの良い建物の南面には手入れの行き届いた芝生の庭園があり、天気の良い日はお茶を飲み会話を楽しんだり、四季折々の草花の栽培管理を行っている。また、その一角の家庭菜園で収穫した野菜を食卓に添え、季節感を味わいつつ食事を楽しんでいる。また、ホームのレクリエーション時に近隣の人達を招待し、一緒にレクリエーションを楽しんだりお茶を飲んだり、中学校の吹奏楽部が演奏に訪れるなど幅広い層の人達との交流の場となっている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>外部評価は今回が初めてである。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は、全職員が参加する月1回開かれる勉強会において項目毎に職員が読み上げ、各項目が求めているねらいを話し合い、取り組みの内容を記入し作成している。自己評価の過程で、家族や入居者の意向は各々違うので聞きながら支援することが大切と話し合い実践している。</p>
	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>会議を2ヶ月おきに開催し、週1回スーパーへ買い物に行く状況や行事予定等を報告し意見交換を行っている。家族代表の要望に対しては市役所の指導を得て対応したり、区長から地域の祭り等の行事を発表してもらったり、近隣のお寺で行われる数珠回しの念仏に参加するなど会議での話し合いをサービスの向上に活かしている。</p>
重点項目②	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>苦情・相談箱を設けている。外部へ苦情等を表せる機会の場合については、重要事項説明書に明記している。部屋に冷蔵庫を置きたいという入居者の要望にはリビングに設置し誰でも利用出来るよう対応したり、帰宅願望の人には家族に迎えに来てもらったり、弁当持参して居室で家族と食事をしたりして、入居者や家族の要望を反映した事業所運営に取り組んでいる。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域で行なわれる清掃活動や納涼祭に参加したり、レクリエーションの時に近所の人達を招待し一緒に楽しんだり、お茶を飲んだりしている。また、高校生や中学生・小学生の訪問を受け入れたり、地域の人の描いた絵がラウンジや廊下に飾られ季節毎に掛け変えられるなど地元の人々との交流に努めている。</p>
重点項目④	

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	平成21年4月の開設にあわせ職員会議で話し合い、「個人個人の尊厳を尊重し、地域住民との交流をはかりながら、高齢者の方々が自立した日常生活をより長く営めるようお手伝いいたします」理念をつくり支援している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝理念を唱和し、尊厳を傷つけない言葉掛け、自分ならこうされたい・こうされたら嫌だと相手の立場に立った介護を心掛け、理念を心に留め、理念に立ち返り、日々理念の実践に向けた支援に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域で行なわれる清掃活動や納涼祭に参加し、レクリエーションの時に近所の人に声をかけを一緒に楽しんだり、お茶を飲んだりしている。また、高校生や中学生・小学生の訪問を受け入れている。地域の人の描いた絵がラウンジや廊下に飾られ季節毎に掛け変えられるなど、地元の人々との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、全職員が参加する月1回の勉強会で項目毎に職員が読み上げ、各項目が求めているねらいを話し合い、取り組みの内容を記入し作成している。自己評価の過程で、家族や入居者の求めているものは各々違うので意向や希望を聞きながら支援することが大切と実践している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は、併設の小規模多機能型居宅介護事業所と合同で2ヶ月おきに開催し、週1回スーパーへ買い物に行く状況や行事予定等を報告し意見交換を行っている。家族代表の要望に市役所の指導を得て対応したり、区長から地域の祭り行事等を発表してもらい近隣のお寺で行なわれる数珠回しの念仏に参加するなど、会議での話し合いをサービスの向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	更新書類や管理者変更届等を持参するなど担当者と接触する機会づくりを心がけ、新型インフルエンザに罹病した際の対処等について指導を受けサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時に事業所の運営方針等を説明し、入居者の状況等を報告している。必要の都度電話連絡すると共に、受診内容や病状、家族への連絡事項や行事開催の予定、日常生活の状況等を記載した「お便り」を作成し、毎月の利用料請求書に同封している。金銭管理は「お預り金利用明細書」のコピーに領収書を添え、利用料請求時に精算している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情・相談箱を設けている。外部へ苦情等を表せる機会の場については、重要事項説明書に明記している。部屋に冷蔵庫を置きたいという入居者の要望にはリビングに設置し誰でもが利用出来るよう対応したり、帰宅願望の強い人には家族と相談のうえ一時帰宅したり、家族の意向を受け入れ弁当を持参して居室で食事をする等入居者や家族の要望を反映した事業所運営に取り組んでいる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設に当たりベテラン職員3名を配置すると共に、新規採用職員には実習期間を設け入居者とのコミュニケーションを図るなど入居者へのダメージを防ぐ配慮を行っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修計画を作成し、入浴や食事・排泄など基本的事項の研修や新型インフルエンザについて看護師から講義を受けるなど毎月全職員が参加する勉強会を開催している。なお、外部研修の受講は来年度から取り組むこととしている。また、施設長は毎月給料明細書を手渡す際に職員の良い点や改善点などを述べ、職員を育てる取り組みをしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	開設して間もないことでもあり、同業者との交流はこれからと考えている。	○	同業者と交流する機会を持ちサービスの質の向上に取り組まれるよう期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事業所開設前に内覧会を開催し、入居希望者や地域の人々に見学の機会を提供している。また、入居に当たっては、本人や家族が事業所見学を行ない、入居予定者の生活歴等を聴取するなど事業所に馴染み入居できるよう取り組んでいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	農業経験のある入居者から野菜の栽培管理を教わったり、七草粥やあずき粥など年中行事の調理を教わっている。また、おからの味付けやじゃがいもの煮崩れしない調理方法等を教わり、調理の下拵えや盛り付け・掃除や洗濯物たたみなど日々の活動を通じ共に学び支え合う関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者全員が明確な意思疎通が可能であるが、自分ならこうされたい・こうされたら嫌だと日々の介護を考え常に相手の立場に立ち支援している。また、面会時等家族から希望を聞き、意向を反映した支援に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居時に家族の要望や意見を聞き、記録したケアチェック表やリハビリプログラムに基づき、毎月全職員が出席する職員会議で話し合い介護計画を作成している。作成した介護計画は全職員が目を通し、介護支援専門員が家族に説明し、署名を頂いている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は更新時の見直しを予定し、昨年4月の開設以降入居者の身体状況等に変化はなく見直しは行われていない。	○	1ヶ月毎にアセスメントを行ない状況の変化の有無を確認し、必要に応じて計画の見直しをされるよう期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	かかりつけ医の受診や理美容院の送迎を職員が行ない、併設の小規模多機能居宅介護事業所との交流など柔軟な支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の受診は体調の変化等必要に応じ家族も同行し、協力医は月1回往診し、夜間は携帯電話で対応している。歯の治療は必要に応じ家族と相談のうえ往診治療を行い、受診状況は「お便り」で毎月家族に報告している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合の対応は職員会議で話し合い、連絡ノートで伝えている。重度化や終末期を迎えた場合は、医療行為を伴う時は医師の指示に基づき入院対応とし、家族が事業所での生活を希望する場合は医師と相談し、指導の下に介護していく旨家族に説明している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	声かけやトイレ介助等で入居者の誇りやプライバシーを損ねないようマニュアルが作成され、今後勉強会で周知していく予定である。個人記録や情報は事務室に保管し、入職時に守秘義務の誓約書を取っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の早い人や遅い人、外出や買い物を希望する人など一人ひとりの思いや希望に配慮しながら柔軟に支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	米とぎや調理の下拵え、盛り付けや食器拭きなどを職員と共に行っている。一人ひとりの好みを把握し、家庭菜園で収穫した野菜を添えたり、野菜を多く取り入れた調理を心がけている。栄養士の資格を持つ職員が、調理の内容や栄養状況を解説している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	原則週3回の入浴とし、時には入浴剤を入れ温泉気分を味わっている。入浴を拒否する人には、足湯や下着の着替えなどの声かけを行ない入浴へ誘導している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	庭園の芝生の手入れ、掃除、食事の準備、家庭菜園の野菜の収穫など入居者の力量に応じた役割を担っている。また、外食行事や季節毎のドライブ、花見での屋台の買い物など楽しみごとの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	芝と草花の植えられた庭園のベンチでお茶を飲んだり、南面に広がるたんぼ道を散歩している。ドライブを兼ねコスモス畑や菖蒲園・菊花展を見物したり、衣料品の買い物など外出支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室とラウンジの間の扉は、暗唱番号で開くようにしている。玄関の扉は手薄となる食事時や入浴時に暗唱番号で開くようにしている。	○	入居者の安全を確保しつつ日中は鍵をかけない工夫をされるよう期待する。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導の下に救急救命講習会や救急車の見学会を行ない、年2回のうち1回は消防署の指導を受け夜間を想定した避難・消火訓練を行っている。また、災害時における地域の人々の協力依頼は運営推進会議において行なっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスについては前日以前の献立を見て、重複しない調理を行なっている。食事摂取状況は、「食事摂取量確認表」で毎食の摂取割合を記録している。水分摂取量は、医師の指示があれば記録することとしている。	○	日々の水分摂取量を記録されるよう期待する。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天気の良い日は手入れの行き届いた芝生でお茶や会話を楽しんだり、リビングやラウンジにシクラメンやシンビジウム・ベラニウムの花や観葉植物が随所に配置されている。また、季節毎に掛け変えられる地域の人が描いた油絵が玄関や廊下等に飾られ、リビングは床暖房が施されて温湿度計が備えられる等居心地良く過ごせるよう工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使いなれた整理ダンスや炬燵、椅子や仏壇などが持ちこまれ、各居室の壁紙の色やカーテンの模様を変えて変化を持たせることによって、自分の居室であることを意識づける等居心地良く過ごせるよう工夫している。		